



index

- ・【保健衛生】キノコの食中毒に気をつけましょう P 1
- ・【環境保全】湖の水質調査について P 2
- ・【保健衛生】福井県におけるマダニの調査 P 3
- ・【トピックス】福井大学医学部学生の実習 他 P 4

保健衛生

キノコの食中毒に気をつけましょう

夏の厳しい暑さも和らいできて、これからハイキングや紅葉狩りで山へ登る方も多いのではないのでしょうか。そこで注意していただきたいのが毒キノコによる食中毒です。適度な降雨があり、朝晩の気温が低下すると多くのキノコが発生します。福井県内でも秋に多くの食中毒が起きていて、当センターでも検査対応を検討しています。

今回はキノコ狩りの際に気をつけるポイントを紹介します。



キノコについて詳しい人に聞き、迷ったら食べない！

野生のキノコは生えている場所や発生時期で見た目が変わることもあり、初心者が図鑑などの写真と見比べて、食用のキノコか毒キノコかどうかを判断するのはとても難しいです。野生のキノコを採ってきたら安易に食することはやめ、必ずキノコについて詳しい人に判断してもらいましょう。確実に安全だと判断できないキノコは食べないこと、人にあげないこと、人からもらっても食べないことが大切です。

迷信を信じてはいけません！

キノコには右記のように、いろいろな迷信があります。これらの迷信を信じてしまったために、食中毒になるケースが多いです。科学的に根拠の無い情報で、毒キノコかどうかを判断しないようにしましょう。

【間違った迷信の例】

- ・派手な色は毒キノコ
- ・塩漬けや乾燥させれば食べられる
- ・虫が食べるキノコは食べられる
- ・茎が縦に裂ければ食べられる

食用キノコと間違いやすい毒キノコ

シイタケなどの食用キノコと間違いやすいツキヨタケや、以前は食用されていたスギヒラタケなどは特に注意が必要です。



スギヒラタケ



ツキヨタケ

(写真：福井県ホームページ「野生キノコにご注意ください!」) (食品衛生研究グループ 山本)

湖の水質調査について

～ラムサール条約登録湿地の三方五湖の水を守るために～

福井県を代表する水辺である三方五湖と北潟湖において、定期的に水質調査を行っています。

有機汚濁の指標であるCODや富栄養化の要因となる窒素・磷をはじめ、カドミウムなど人の健康の保護に関する項目、農薬、水生生物の保全にかかる化学物質など約50項目について調べています。

このうち、三方湖など一部水域では、CODや窒素・磷の濃度が環境基準を達成できていませんが、閉鎖性水域である湖沼については全国的に同様の課題を抱えています。

水質改善のために、監視データの解析、水質浄化等の研究を行っています。近年のトピックス的な話題を紹介します。

□プランクトン調査

湖沼では、富栄養化が進みやすい8月と10月に動植物プランクトンを顕微鏡で観察しています。

三方湖では2001年以降、植物プランクトンの異常繁殖によるアオコの発生は確認されていませんが、2014年まではアオコの原因となる藍藻類が優占種でした。しかし、2015年8月の調査では、鞭毛藻類の *Dinobryon* sp. が優占種となりました。この種は山間部のダムなど貧栄養湖でも認められるものです。

近年は、湖面を覆いつくすようにヒシが繁茂する環境の変化が認められ、日照阻害による植物プランクトンの光合成の抑制なども考えられます。

今後、三方湖の水質が改善に向かっていくのか注視していく必要があります。

□窒素・磷の測定（連続流れ分析）

窒素・磷の測定は、従来の方法では前処理操作など手分析に手間がかかり大変でしたが、2016年に連続流れ分析装置を導入してからは作業効率があがるようになりました。

この装置は前処理の自動化が可能となり、窒素と磷を同時に分析することができます。

今後の調査研究に役立つものと考えています。



写真1 三方五湖の風景

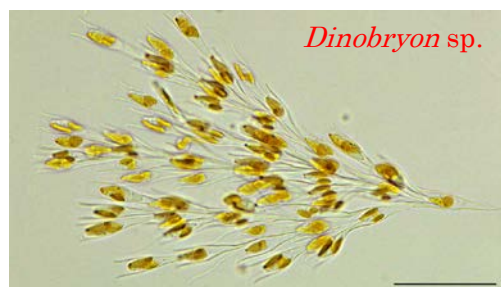


写真2 植物プランクトンの観察



写真3 三方湖のヒシの発生



写真4 連続流れ分析装置

(水質環境研究グループ 熊谷)

福井県におけるマダニの調査

平成29年7月に初めて県内で重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者が確認されました（図）。

国内では平成25年1月に初めて報告され、その後西日本を中心に患者報告がされています。平成29年には8月6日までに64名の患者が報告され、報告対象となった平成25年以来、5年間で最多となっています。

SFTSは多くの場合、SFTSウイルスを保有しているマダニに咬まれることで感染し、主な症状は発熱、全身倦怠感、消化器症状、嘔吐、下痢、腹痛で、重症化すると死に至ることもあります。



報道機関各位

平成29年8月1日

健康福祉部健康増進課感染症対策グループ
 担当者 佐野、野路、上藤
 電話番号 0776-20-0351
 県庁内線番号 2625、2626

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生について

福井県内で初めて、重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome：以下「SFTS」という。）の患者が確認されました。

1 患者の概要

平成29年7月31日19時頃、二州健康福祉センター管内の医療機関から、同センターに対し、患者からSFTSウイルスを確認した旨届出があった。

このため、同センターは、患者の健康状態、行動等についての調査を実施した。

- (1) 患者：二州健康福祉センター管内在住の80代 男性
- (2) 主な症状：発熱、食欲不振、血小板減少、白血球減少
- (3) 現在の状態：症状は回復してきている

発症日	初診日	入院	退院	検査	
				検査開始	陽性確認
7/24	7/27	7/27	—	7/31	7/31

図 報道発表資料（SFTSの発生について）

表 県内採集マダニ種（平成25～28年調査）

属	マダニ種	嶺南	嶺北
チマダニ属	キチマダニ	●	●
	フタトゲチマダニ	●	●
	オオトゲチマダニ	●	●
	ヒゲナガチマダニ	●	●
	ヤマトチマダニ		●
	ヤマアラシチマダニ	●	
マダニ属	ヤマトマダニ		●
	ヒツツゲマダニ	●	●
	タネガタマダニ		●
	シュルツエマダニ		●
カクマダニ属	タイワンカクマダニ	●	●
キララマダニ属	タカサゴキララマダニ	●	●

当センターでは、平成25年から県内のマダニの生息状況およびSFTSウイルス保有状況の調査を実施しています。

SFTSウイルスを保有すると報告されているキチマダニ、フタトゲチマダニ、オオトゲチマダニ、ヒゲナガチマダニ、タカサゴキララマダニは県内にも生息していることが明らかとなりました（表）。また、県内で採集されたキチマダニ、フタトゲチマダニ、オオトゲチマダニ、ヒゲナガチマダニの数匹からSFTSウイルスが検出されました（国立感染症研究所検査）。

これらのことから、県内でもマダニに咬まれ、SFTSを発症する可能性があることが示唆されました。

マダニは民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道にも生息しています。森林や草むら、やぶ等に入る場合には、長袖、長ズボンを着用するなど、肌の露出を少なくし、マダニに咬まれないようにしましょう。

また、マダニに咬まれた場合には数週間は体調の変化（発熱、食欲不振、嘔吐、下痢、腹痛など）に注意し、症状が現れた場合には医療機関を受診してください。（細菌・ウイルス研究グループ 平野）

福井大学医学部学生の実習（5～6月）

福井大学医学部4年生10名の環境保健学実習を行いました。保健衛生分野と環境保全分野に分かれて行い、保健衛生分野ではセンターで行っている試験・調査業務や研究についての講義や、ウイルス・細菌検査、食品添加物試験、食品の理化学検査などの実習を行いました。環境保全分野では、河川の水質測定、大気汚染物質PM2.5の成分分析、アスベスト分析等の実習および「(株)増田喜 本社および福井営業所」「福井環境事業(株)二日市リサイクルセンター」などのリサイクル（古紙回収、容器包装回収）関連の施設見学などを行いました。



河川水質測定実習



食品理化学検査実習



古紙回収場見学

「環境科学体験教室」を開催（6月）

毎年6月の環境月間に合わせて開催している「環境科学体験教室」を、昨年に引き続き、県文書館・県立図書館で開催しました。

体験・実験コーナーでは、顕微鏡で水生微生物の観察をしたり、足こぎバイクを使って発電を体験するなど6つのコーナーに分かれ、環境科学のおもしろさを体験していただきました。

会場には、当センターの研究内容を紹介するパネル展示も行われ、多くの参加者でにぎわいました。



水生微生物観察



足こぎバイク発電



巨大シャボン玉

当センターでは下記のホームページで調査研究内容や所報などの刊行物を公表しています。

編集発行 福井県衛生環境研究センター 〒910-8551 福井市原目町39-4
 電話：(0776)54-5630 FAX：(0776)54-6739 E-mail：eiken@pref.fukui.lg.jp
 ホームページ <http://www.erc.pref.fukui.jp/center/>
 みなさんのご意見、ご質問をお待ちしています。

(17.09.16170)

編集後記

だんだん気温も低くなり、秋らしくなってきました。今年はサンマの値段が高いとのことです。